

第117回



The 117th Meeting of
Japanese Society of Pediatric Psychiatry and Neurology



日本小児精神神経学会

会期 2017年6月3日(土)・4日(日)

会場 東京医科歯科大学 鈴木章夫記念講堂
(東京都文京区)

大会長 石崎 朝世 公益社団法人 発達協会王子クリニック 院長

テーマ 多職種連携で、子どもを育む

- 研修セミナー
発達障害へのより良い対応と指導につながるアセスメント
辻井 正次先生 中京大学 現代社会学部
- 講演
 - 特別講演1 ト라우マ、愛着と発達障害
～次世代を担う子どもたちの発達を支えるために必要なもの～
友田 明美先生 福井大学 子どものこころの発達研究センター
 - 特別講演2 子どもの人権にかかわる弁護士の役割
山下 敏雅先生 永野・山下法律事務所
 - 特別講演3 子どもを健やかに育むため、今、何が必要か
品川 裕香先生 教育ジャーナリスト、中央教育審議会委員
 - 教育講演1 障害を持つ子どもの神経心理学的評価
坂爪 一幸先生 早稲田大学教育・総合科学学術院
 - 教育講演2 発達障害を持つ子どものことばを育む
～外来でのご家族へのアドバイスを含めて
中川 信子先生 子どもの発達支援を考えるSTの会
- シンポジウム
発達障害にかかわる多職種とどのように連携が図れるか：
包括的医療体制構築を目指して
座長：作田 亮一先生 獨協医科大学越谷病院 子どものこころ診療センター
中里 道子先生 千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター

<http://jsppn117.umin.jp/>

ご挨拶



この度、第117回日本小児精神神経学会を東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂で開催させていただきます。

多くの子どもは、まずは親など家族にしっかり受け止められ、食やスキンシップ、遊びを通してのかかわり合いなどがあって発達します。幼児期では、地域の方、園の先生方、子ども同士の交流でさらに成長、家庭でも身辺自立に向け教えられます。学齢期になれば、学校の先生方から学び、集団や友達の中でもまれ、社会性を発達させ、知識、常識、様々な体験を蓄積させ、社会に出る準備をしていきます。ただし、障害を有する、あるいはその心配がある子ども達は同様にはいきません。通常の成育環境のみでは、健やかな発達のためには不十分と思われる。どのような障害あるいは特性があるのかを把握し、その子どもなりの発達を促すために、よりよい方法を模索する必要があります。必要な専門家が発達支援に加わることで、より健やかな発達が実現する可能性があります。

また、近年の成育環境を考えますと、小家族化が進み、地域の人々の関係が希薄になっていることも多く、家族や地域の中で、コミュニケーション能力や社会性を育む機会が減っています。さらにゲームやスマホの普及、自然の中で身体をぶつけ合って遊ぶような機会も減っていることなども、それに拍車をかけているように思います。一方では、社会に出れば、機械やパソコンの普及などのため、機械やパソコンではできないコミュニケーション能力や企画力、想像力を求められます。他にも、さまざまな要因があると思いますが、社会に生き生きと参加するために、多くの専門家からの支援を必要としている児童、青年が増加しています。

以上の状況を踏まえて、第117回大会では、『多職種の連携で、子どもを育む』をテーマといたしました。

子どもの発達にかかわる種々の専門家が互いに学び合い、自身の専門領域の力を発揮しつつも、他領域の知識も学び、よりよい連携をとって、家族をも支援し、子どもを良い形で育ていきたい、障害のあるなしにかかわらず、多くの職種の連携で、子どものさまざまな力を伸ばし、社会に参加させたいという思いで、このテーマを選びました。

皆さまから、「多職種の連携」に関する演題、一般演題の多数の応募をお待ちしております。

平成28年 6月 吉日

第117回日本小児精神神経学会 大会長 石崎 朝世

公益社団法人発達協会王子クリニック 院長

第117回 日本小児精神神経学会 事務局

公益社団法人発達協会

〒115-0044 東京都北区赤羽南2-10-20

E-mail: 117jsppn@hattatsu.or.jp

事務局長：洲鎌 倫子（公益社団法人発達協会王子クリニック 副院長）